

大阪狭山市の 地車「だんじり」

だんじりが屋根をこすって 秋祭り

松谷 湖塔

2014年秋。
今年も大阪の南部、摂・河・泉の都市、
町々に「だんじり」祭の笛・太鼓・鉦の音と
若人たちの元気な掛声が充ちみちました。



池之原地区の新調地車（だんじり）



小屋根



大屋根

大阪狭山市も10月11日、12日の2日間に亘り、だんじりが町中を勇壮に又華やかに曳行し、沿道の歓声を受けました。その中でひとときを誇らし気に胸を張り曳き廻るピカピカの一台が目につきました。曳き手の背には麗々しく「池之原」の文字……。それは、池之原地区が今秋新調した念願のだんじりでした。大正15年（1926年）奈良県大和高田村から当時の金額「70円」で中古で買い取り、昨年まで88年間、池之原のシンボルとして曳き続けてきた以前のだんじりは、年とともに劣化し随時部分改修を行いつつも、安全性を保ってきたのですが、最近特に全体の老朽化が著しく進んできていました。平成24年9月、池之原地区会は臨時総会を決議し、だんじり新調を決定しました。それから2年、財源調達も克服し新調に向かって地区住民は総力をあげて努力してきました。そして、平成26年9月21日、念願待望の新調だんじりが完成。入魂式、お披露目曳行を終えての初登場でした。

「だんじり」を特集します。大阪狭山市には連合会に所属しているだんじりが、池之原、今熊、大野、隠、川向、茱萸木（北・南）、狭山、山伏、山本の9地区で10台あります。（茱萸木は北・南それぞれ1台持ち）。毎年10月初旬のだんじり祭にはこの10台が町中を練るのですが、ここで簡単に「だんじり」を解説しますと、地車（だんじり）は、神社の祭礼で用いられる屋台・「山車」の一種。主に関西地方で多く見られ、大小2つに分かれた独特の破風屋根を持つ曳き山で、多くの彫刻が組み込まれ、刺繍幕や金の綱、提灯やぼんぼり、旗・幟などの装飾が施されています。主に樺（ケヤキ）を用いて造られています。が、コマには松が用いられます。金具の装飾など以外には釘は使用されておらず、宮大工の技術が用いられています。なお地車を「だんじり」と読むのはあくまで俗な呼び名・当て字であり、地車の本来の読み方は「じぐるま（ちぐるま）」です。又「だんじり」には「上だんじり」「下だんじり」の2つの形があり、「上だんじり」には住吉型・神戸型・堺型とあり、「下だんじり」は岸和田型の1つだけです。次に曳き方ですが「上だんじり」

同社会の中での「個」と「連帯」について様々な考え方が課題となつています。

最後に「皆さんにとって『だんじり』とは……」

- 地域が持つ歴史の再確認をし、そこに集う人を新しく変化させる媒体。
- 親子、友達、異世代間の大切な交流の場。
- 自分の心の中の「よりどころ」。「SOUL」とも云うべきもの。
- 昔からの伝統を受け継ぐ物であり物心共の財産。
- だんじりは同窓会。
- 一つの目的に向かって上から下までの年代が話し合い、共に働くことの出来る「繋ぎ」の場。
- 宝物
- 人との交き合いの根本となる

り」は曳行の時にだんじり本体を揺らしたり、回転させたりして進みますが「下だんじり」はただただ突っ走ること身上とします。大阪狭山では今熊のだんじりだけが「下だんじり」です。今回この特集を組むにあたり、各地区のだんじり祭代表の方々から「だんじり」に対する思い等を語っていただきました。

「一番わくわくする時は？」

- 祭が始まり曳き出しの太鼓の音が響くと勇気が湧いてくる。子どもの頃太鼓の音に誘われて親に抱かれ見に行っていた思い出が続いている。
- 年齢によって変わってゆくが、小学生になり初めて曳き綱を握った時、また青年団に入りハッピーを着た時、言葉に出来ない喜びを感じた。

現状で感じる問題点は？

- 全体的にいえることは、各地区住民だけでは曳き手が足りなく、他所から応援を余儀なくされている。
- だんじり祭を単なる騒ぎの場と考え、年代相互間の礼儀が疎かになっている。
- 昔からの地区とニュータウン地区でのだんじり祭に対する受け止め方の違い。
- 等についての発言があり、共

最も充実感を覚える時は？

- 祭が終わって、無事「だんじり小屋」に帰り着き、※落索の時の乾杯の一飲に無事故で終わった安堵と連帯感の尊さを感じる。
- ※落索後後宴すなわち祭の後の慰労会これは全員の一致した返答でした。

最後に「皆さんにとって『だんじり』とは……」

- 「ざ」という時に力を合わせられるよう、各地域での防災訓練はもとより、地車まつりや盆踊り、文化祭や運動会など、地区会や自治会などの様々な活動を通じて、人と人とのつながりを強めておくことが重要です。」

まとめ

もともと「だんじり」の起りとはその年の五穀豊穡を神に感謝する秋祭りや神社に奉納する行事で、今の言葉で云えば村人こぞのパーフォーマンスでした。

時代が移るに従いその精神は残るも実体は変って地区会や自治会の行事となりました。しかし秋祭りの日に、老若男女子どもも共に自分達の住む地域の「だんじり」を曳くという共通の目的に向かって行動してゆく姿は、昔も今も変わりません。技術革新を中心とした現代文明の進む中で失われていく異世代間の人と人との交流が、ここでは保たれているのです。「だんじり」は今稀薄となった家族や隣人との交わりを、又世代間遊離を繋ぎ戻す媒体として大きな役割を果たしているのです。

父が曳き

今年は二人の兄が曳く

小さな町の秋のお祭り

杉本まゆみ

大阪狭山市 地車連合会



池之原地区



狭山地区



大野地区



今熊地区



川向地区



隠地区



茱萸木地区(南)



茱萸木地区(北)



山本地区



山伏地区